

# ふれあいボランティア活動 感想文集



令和2年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

## ふれあいボランティアパスポート事業

### 令和2年度ふれあいボランティア活動感想文集

#### 発行にあたって

さわやか青少年センター（以下SSCという）は、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する「ふれあいボランティア体験学習」の中で人とふれあって行う「ボランティア体験活動」のこと。以下、「体験活動」という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取り組みの一つであると考えています。SSCでは、その「体験活動」を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート（以下、FVPという）」を学校や団体に提供しています。

今年度は、コロナ禍というこれまでにない環境下での「ふれあいボランティア活動感想文」の募集となりました。年度の当初に緊急事態宣言が発出され、学校の多くが休校になったり、人と人との接触を避け、人との距離を保つように注意喚起がなされたりするなどの状況が続き、FVP参加校・団体の皆様にはふれあいボランティア体験学習の実施そのものが困難であったことと拝察いたしております。そのような中でふれあいボランティア体験学習の感想文の応募をいただけるだろうかと心配いたしておりますが、9校1団体から529作品もの感想文をお寄せいただきました。

ご応募いただいた児童・生徒のみなさん、活動のご指導、及び、感想文の応募を勧めていただきました先生、指導者の皆様にご心より感謝申し上げます。

「ふれあいボランティア体験学習」は、ボランティア体験活動により、人とふれあい、心を通わせ、地域や社会を知り、考え、学ぶことで、自己肯定感をはじめとする人間力を育み、よりよい社会づくりにもつながる学習活動です。

今回応募いただいた感想文からは、変化化する環境の中にあつて、児童生徒のみなさんが、自分は何ができるか、しっかりと考え、そして、創意工夫をして活動に取り組まれ、成長されていることがよく伝わってきました。

FVPは、児童・生徒に「体験活動」のきっかけ（動機付け）を提供するツールであり、無償で提供しています。ふれあいボランティアパスポート参加校、参加団体の教員、指導者の皆様には、保護者や地域の協力者の方々にもご紹介をいただきまして、FVPを活用した「体験活動」の輪を広げていただければ幸いです。

それでは、今年度の感想文、および選考委員の講評をお読みいただきたいと思えます。

令和3年3月1日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティアパスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介します。ダウンロードできます。（URL：<http://www.sectnpo.or.jp>）

### 「ふれあいボランティア感想文」

応募総数529点（小学校7校・1団体338点、中学校1校160点、高校1校31点）

### ○受賞者

#### 【ふれあいボランティア活動大賞】（1人）

東京都立稔ヶ丘高等学校 3年

川邊 さくらさん

#### 【小学生賞】（10人）

千葉県栄町立安食小学校 1年

鈴木 龍馬さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校 2年

榎下町 龍飛さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校 2年

櫛山 麗さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校 2年

籠原 優信さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校 3年

松村 氷毬希さん

千葉県栄町立安食台小学校 5年

甲斐 みのりさん

福岡県大牟田市立明治小学校 5年

久富 結衣さん

福岡県大牟田市立中友小学校 5年

高口 笑里さん

青森県弘前市岩木児童センター 小学校 6年

村上 結音さん

福岡県大牟田市立明治小学校 6年

諸藤 敦己さん

#### 【中学生賞】（2人）

東京都小平市立小平第五中学校 1年

門脇 立旺さん

東京都小平市立小平第五中学校 1年

永平 珠稀さん

#### 【高校生賞】（2人）

東京都立稔ヶ丘高等学校 2年

田村 陽さん

東京都立稔ヶ丘高等学校 3年

久能 向日葵さん

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益社団法人全国公民会連合会理事、

アナウンサー、エッセイスト 村松 真貴子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会

理事長 奥山 千鶴子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

元日本教育新聞社編集局局長、

公益財団法人理想教育財団理事 矢吹 正徳氏

講評

◆ふれあいボランティア活動感想文選考委員長

コロナ禍でもボランティア！

公益社団法人全国公民会連合会理事、

アナウンサー、エッセイスト 村松 真貴子

三密を避け、人との距離を取るように！ 新型コロナウイルス

イルスという目に見えないウイルスの出現で、私たちの暮らしも仕事も一変しました。子どもたちも学校に行けなかったり友達とも遊べなかったり、さまざまな制約を受けな

がらボランティア活動はできたのだろうかかと心配していましたが、コロナ禍ならではの取り組みがありました。

外で遊べない小さな子どもたちのために塗り絵を作ったり、地元の特徴を盛り込んだすごろくを作ったりした中学生。直接手渡すことはできなかったそうですが、遊んでいる子どもたちの笑顔を思い浮かべながら作ったことでしよう。生まれたばかりの妹にミルクをあげ一緒に遊ぶことを楽しみにしていたり、なかなか会えない高齢のおばあちゃんに手紙を書いて励まそうとしたり、コロナ禍だからこそその家族のつながりに温かさを感じました。

そして、子どもたちと遊んであげようと児童館にボランティアに行ったら、いつの間にか子どもたちから励ましの言葉をもらっていることに気づいたという高校生。ボランティアをすることで自分が変わり、休みがちだった学校に行くようになり、将来のやりたいことも見つかったというではありませんか！ そう、ボランティアは自分を成長させ、自分の可能性を広げる力を持っているのです。

コロナ禍で人との距離は取らなければなりません、ボランティアには、人と人との心の距離を縮めてくれる働きもあるということを実感しました。

## ◆選考委員

ケアすることはケアされること

つながるボランティアの意味

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長

奥山 千鶴子

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により人と人とのコミュニケーションが取りにくいからこそ「つながる」ということの意味がさらに重要だと感じる一年でした。

高齢者施設や児童館等にかけるボランティアはかなり縮小してきていると思います。ただ、そこに見られる「つながり」によって、あまり乗り気ではなかったけれど、実は自分がケアされていた。自然と生活に張りが出てこんな自分にも驚いているというような、前向きな行動変容につながったことが感想に述べられていました。つくづく人は、人に癒され、触発されて生きているのだと感じます。

環境問題への思いもたくさん書かれていました。家族の中の私、学校や集団の中の私、地域の中の私は、世界の私でもあって、有機的につながる世界観を感じる表現もありました。家族や地域のことを考えることは世界を

考えること、そんな思いで将来を語ってくれる皆さんの活動報告に、昨今の厳しい新型コロナウイルス感染症の拡大は、飛躍の題材をいただいたのだと前向きに考えたと思います。ありがとうございました！

人のつながりの大切さ

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

ふれあいボランティアの感想文を今年も読ませていただきました。日本全国で様々なボランティアや助け合いが行われていたことに心を打たれました。子ども向け、高齢者向け、家族の手伝い、清掃活動、ヘアドネーションなど幅広い活動があり、素晴らしいと思いました。

2020年は小中高校生の皆さんは、色々と不安の中で過ごされたことかと思えます。学校が休校になったり、楽しみにしていた行事がなくなったり、予定通りにいかなかったりすることも多かったのではないかと思います。そんな1年だったからこそ、皆さんが誰かのために動いたことにはより一層価値があったと言えると思います。皆さん自身も大変な中、よくぞ頑張ってくださいっと思います。

色々なものがオンラインになっていく世の中ですが、本質的に大事なものはやはり人と人の繋がりでありそこから感じる温かさです。どうかどんな時代になっても、その気持ちを大切になさってください。温かい気持ちを実際に味わった皆さんにはそれができると想像ができます。皆さんの成長を心から楽しみにしております。これからも頑張ってくださいね。

ボランティアする心にあります

元日本教育新聞社取締役編集局長・

公益財団法人理想教育財団理事 矢吹 正徳

今回もまた多くのボランティア活動をしている小・中・高校生の感想文を読む機会をいただきました。

私は四半世紀にわたって中学生、高校生が取り組むボランティア活動を表彰し、奨励するアワードにも関わらせていただいています。こちらがダイナミックな活動リポートならば、「ふれあいボランティア活動感想文」は、より個人的な心の動きに触れる貴重な機会になっています。

感想文からは、小学生の家庭内でのお手伝い、校内や身の回りでの活動、中学生になると地域を視野にした活

動へと発展する様子が伝わり、高校生は社会との関わりの中で活動をとらえる姿を見ることが出来ます。

いずれもやむにやまれぬ気持ちの発露から、人助けであったり、地域を元気にしたりしています。コロナ禍に負けずに新たな活動を創出したり、ヘアドネーションに協力するなど自分でできる活動に気付く皆さんがいます。こうした気持ちが高じて、アワードで出合う生徒のように自ら組織を立ち上げる活動へと発展していくでしょう。ヘアドネーションなどの活動は、高校生によるNP O 法人作りにつながり、全国の仲間が参集する活動が生まれています。

「感想文」を綴った皆さんには、人や地域に関わっていく自分自身の気持ちを大切にし、笑顔や元気を届ける活動を続けていってほしいと思います。ボランティアする心にあります。

**受賞作品** \*児童・生徒の原文に従って作成しています。

(希望受賞者の顔写真を掲載しています。)

## 【ふれあいボランティア活動大賞】

毎日成長

東京都立穂ヶ丘高等学校

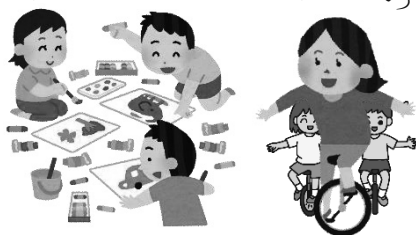
3年 川邊 さくら



私の通う学校では、ボランティアを単位として認定する制度があります。卒業するための単位を取るために児童館でボランティアを始めました。ボランティアをつけていくうちに、人の役に立ちたいという思いのほうが強くなり前向きな気持ちになりました。ボランティアに行く前は、小学生と遊ぶことが仕事だと簡単な仕事だと思っていました。

でも今は、一輪車の乗り方を教えたり一緒に絵を描いています。遊ぶのではなく教える立場を経験しています。子どもたちにはいつも励まされる言葉ももらっています。ボランティア活動をして、自分が変わったことが四つあります。一つは、学校に来て授業に参加できている事です。ボランティアする前は、めんどくさいからという理由でサボりがちでいました。今では学校を休んだり、授業をサボると後悔して焦りを感じます。なので、これか

らもちやんと学校には行きます。二つ目は小学生から大人までコミュニケーションが取れるようになりました。私は今まで、小学生とあまり関りがなかったり、先生が苦手でした。でもボランティアをきっかけにたくさん話せるようになりました。三つ目は将来やりたい事をみつめました。ボランティアをしていなかったら、何もやりたい事なんて考えてなかったと思います。四つ目は感謝の言葉が言えるようになりました。授業を受けたら必ず、お礼を言うように心がけています。ボランティアは卒業単位を取るために始めました。やって人の役に立てる喜びを知りました。毎日が私を大きく成長させてくれました。



## 【小学生賞】

あかちゃんのおせわ

千葉県栄町立安食小学校

1年 鈴木 龍馬



ぼくには、さいきん、いもうとがうまれました。名前は、「かいな」といいます。コロナで、びょういんには

いけませんでした。

ぼくは、おかあさんといもうとがかえってくるのを、がんばってまえました。とてもさみしくて、かなしかったです。

ある日、いえにかえると、かわいいかいながいました。小さくて、やわらかくて、とてもかわいかったです。

ぼくは、ソファーで、はじめて、だっこをしました。だっこしたら、ないてしまつて、「だっこつて、むずかしいな。」とおもいました。



おかあさんが、びょういんからかえつたばかりで、まだ、からだがつらそうだったので、みのまわりのお手つだいをしました。おかあさんにおしえてもらいながら、ミルクをあげました。ほにゆうびんにくうきをいれないように、ささえながらあげるのが、むずかしかったです。とても手がつかれました。

おかあさんは、まだ、たったり、すわつたりすることのできないので、おむつやみのまわりのゴミをすてました。そして、かいなには、くつ下もはかせてあげました。まだ、かいなのあしはちいさいので、ぶかぶかで、おかあさんといっしょにわらいました。

あかちゃんのおせわは大へんだけれど、これからもすこしずつ、ほかのお手つだいができるように、おかあさんをたすけたいとおもいました。がつこうがおわつて、かいなどあうのが、まい日、たのしみになりました。

かいながあるけるようになったら、いっしょにこうえんへいって、すべりだいやブランコであそんであげたいです。かいなの一さいのたんじょう日には、おかあさんといっしょにケーキをつくつてあげたいです。

かいな、これからもよろしくね。

気づかなかつたよ

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 櫛下町 龍飛



ぼくの学校では、朝の活どうの時間にボランティアをしています。

草をとつたりおちばをあつめたり、雨の日には、ろう下やかいだんをはわいたりしています。

でもきょうは、ぜん学年で活どうをする日です。うんどう会のチームに分かれてやります。チームで話し合つて、どこをどんなふうにするかきめていました。きょうは、学校の近くのじん社のそうじをしました。でも今年



は、雨だったので、校しゃの中をきれいにすることにしました。

さいしよは、理科室。ぼくは、まだ理科室で学しゅうしたことはないけど、三年生になったらつかうところだなど思ったらしぜんと力を入れてそうじができました。

つぎに、一かいの長いろう下のまどのさんをふくことにしました。ぼくの学校は、子どもがみんなで二十一人しかいません。毎日、そうじの時間はあるけど、いつもはできないところです。「ほこりがすごいでしょう。」

よく見てみると、白いわたみたいなものがついています。いつも通って見ているはずなのに、ぜんぜん気がつきませんでした。

きれいなタオルでふいてみると、すぐに黒くなつてしまいました。きれいに見えたのに、ふいてみると「こんなによこれているんだ」とびっくりました。ふいていくうちに、タオルはまっ黒くなつていきました。近くの友だちのタオルもまっ黒でした。「きれいになつてる。ありがとう。」



後ろから、先生の声が聞こえました。うれしくなつて、今までよりもっと手に力が入りました。ふきおわつた後、まどのさんを見てみると、きれいな茶色で、光つていました。それを見て、ぼくの心もなんだかきれいになつた気がしました。でも、毎日見ているのに、本当に気づかなかつたよ。どうしてかな。

これからは、自分で気づいてすすんでボランティアができるといいな。

### おちばあつめ

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 櫛山 麗



今日のボランティア活どうは、おちばあつめ。校ていにあるイチヨウの木からたくさんのはっぱがおちています。はっぱにうまつていて、地めんが見えないぐらいです。

高学年のおねえさんたちがほうきではわいて、おちばをあつめて山のようにしていきます。わたしは、それをあつめて、ふくろの中に入れていきます。友だちといっしょに、おちばの山から山へと、はっぱをあつめてまわります。なんだかちようちよになつたみたい

です。わたしたちが通った後は、おちばがほとんどありません。それに、大きなビニールぶくろが、やぶれそうならいおちばでばんばんになっっています。先生が、「みんな、すぐがんばっているね。とてもきれいになったよ。」

とほめてくれました。わたしは、「よし。あしたもやるぞ。」

と心の中がやる気でいっぱいになりました。



つぎの日。きのうたくさんあつめたはずなのに、もう校ていがおちばでいっぱいになっています。

「せっかくきのう、あんなにたくさんあつめたのにな」とすこしだけいやな気持ちになりました。

「おつ、うららさん。きょうもがんばるの。すごいね。」と、先生に言われて、やる気パワーがもどってきました。

「よし」きょうもわたしはちようちよのように山から山へ、おちばをあつめてぶくろに入れます。

「あと五分で、朝の会がはじまります。」

「えっ。もうおわりの時間。」  
おわりのあいずを聞いてびっくりしました。でも、校ていのおちばはちゃんと少なくなっています。

「うららさん。きょうもありがとう。校ていがきれいになったね。」

先生からほめられて、いい気持ちでいっぱいです。それに、やる気パワーもまだまだまんたんです。

あしたもおちばがたくさんあるのかな。でも、きれいな校ていにするからね。

花いっぱいになあれ

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 籠原 優信



きょうは、しもがおりにいて、いつもよりさむい朝です。でも、ぼくは、いつものように朝活動をするために校庭に出ました。ぼくは、花だんの土が少し白いのに気がつきました。十一月にうえたクリサンセマムとキンセンカの花がさむそうです。

よく見ると、土には、小さな草がはえていました。もうすぐ冬休み。

「このままだったら、草にえいようをとられてしまうかも。」ぼくは、心の中でしんぱいになりました。

「でも、さむいしな。どうしよう。」少し、考えました。「よし。」

ぼくは、思いきって草を一本とりました。

手が、ひんやりしました。

「つめたいな。やめようかな。」

「でも、花にえいようが行かなくなるかも。」

「かれてしまつて、きれいな花がさか

なくなるかも。」

ぼくの頭が、ごちやごちやになりました。

「よし。とるぞ。」

ぼくは、大きな声を出しました。パワー全開でとりました。土までとれてしまったところもあるけど自分たちのところの花だんの草を半分ぐらいとることができました。

次の日、先生にも手つだつてもらつて、続きをがんばりました。草がなくなつた花だんを見たらうれしくなりました。そして、ぼくの心も花たちもにっこりになりました。

来年の四月、ぼくの妹が入学してきます。

「春になつて、花がいっぱいさいたら、妹や新しい一年生がいい気もちになつてくれたらいいな。」そう考えたら、うれしくなりました。



これからは、もつとさむくなるけど、さむさにまけない心で、自分からすすんで草とりをしたいと思います。

きれいな花をさかせるぞ。

地いきのために

鹿児島県南九州市立中福良小学校

3年 松村 氷瑠希



ぼくたちは、毎年地いきのボランティアせいそうをします。自分たちでそうじをしたい場所を話し合つて、二つのはんにわかれてボランティアをします。神社のそうじに行つた時は、落ち葉をはわいたり、木のえだをひろつたりしました。何をしたら、地いきの人たちのためになつて、よろこんでもらえるだろうと考えながら取り組みました。

すみからすみまでそうじをすると、ぼくの身長と同じくらいの落ち葉の山が三つもできました。周りをみわたすと、ボランティアをする前より、けしきがキラキラしているように見えました。そして、ぼくの気持ちもすつきりしていました。友だちもえ顔でみんながよい気持ちになつてることがわかりました。

先生から、ボランティアの後、神社の神主さんから

「台風の後で葉っぱや木の枝がすぐくて、どうしようか  
と思っていました。そしたら、次の日、とつてもきれい  
になっていてビックリしました。みなさんにおれいを伝  
えてください。」

と、れんらくがあつたことを聞きました。ボランティア  
をすることでよろこんでくれる人が本当にいるんだなと  
思いました。その時もとてもいい気持ちになりました。

ボランティアは、みんなをえ顔にします。これからも、  
ぼくが住んでいる地いきの人たちをえ顔にするためにボ  
ランティアをしていきたいと思います。

百才になったひいおばあちゃんへ

千葉県栄町立安食台小学校

5年 甲斐 みのり



今は、コロナでボランティア活動がなかなかできません。  
でも、コロナでもできるボランティアがありました。  
それは、百才になったひいおばあちゃんに手紙を書くこ  
とです。

ひいおばあちゃんは、耳が遠くかなか電話ができま  
せん。なので私は、手紙を書くことにしました。

送る手紙で工夫したことは、大きな字で書いたり、

写真をはったり絵を描いたりして、  
わかりやすく書きました。

私が手紙を送ると一緒に住んでい  
るおばさんから返事がとどきました。

ひいおばあちゃんが元気にすごし  
ていることやコロナで外が怖くて散  
歩にあまり行けないことなど書いて  
ありました。

特に困っていることは、マスクや消毒が買えないとい  
うことでした。

その時は、家にあつた、マスクや消毒と手紙と一緒に  
送りました。手紙をやりとりすることで不安なことや困  
っていること、元気にしていることがわかります。

そばにいらなくても私にできることがあるとわかり、  
支えていけると思いました。

これからもずっと、ひいおばあちゃんに手紙を書いて  
元気にしてあげたいと思います。

いつかコロナが落ち着いたら百寿のお祝いをしてあげ  
たいです。



## ボランティアから環境へ

### 福岡県大牟田市立明治小学校

5年 久富 結衣



私たち、明治小学校の五年生は五校合同川サミットを通じて堂面川のことについて調べました。調べた後に、堂面川のゴミ拾いをしました。上流、下流のどちらも拾いましたが、ゴミが多くてびっくりしました。ボランティアにもつながることでですが、環境問題についてもつながることだと思えます。堂面川にはあぶないお皿のほんやかかわらなどがたくさんありました。このようなことを防ぐために自分にできることをたくさん見つけて実行しようと考えました。このように実行しようと考えたことも成長の一つだと思えます。

川にごみを捨てる人がいるから、川もきたなくなり、環境をよごす原因にもなります。世界には食べたくても食べられない人がたくさんいます。そのような人たちのことを考えずに物を捨てたり食べ物を残したりするなんて私はひどいと思います。いらない物でも寄付すれば物を必要としている世界の人たちを少しでも助けることができるのではないのでしょうか。

私は、このふれあいボランティアで毎年、ワクチンの

寄付をしたり、学校を建てたりすることに丸をつけています。できるのなら全部に丸をつけたいと思います。私たち一人一人の思いが困っている人を助けることができるとはとてもうれしいです。これからもたくさんボランティアに参加したり、自分にできること実行したりして、私たちのように世界中にいる人が自由に快適な生活ができるように助け合っていきたいと思えます。私も日々過ごしているこの時を感謝しながらくらしたいと思いました。

## 民生委員活動で幸せなまちへ

### 福岡県大牟田市立中友小学校

5年 高口 笑里



私たちの学校では毎年、五年生になると、子ども民生委員活動を行います。

そこで、私たちは八十才以上のお年寄りの方に、自分たちが作った折りづるや、紙風船、しゅりけんを配りました。他には、タオルも配りました。お家を訪問すると、ていねいに話をしていたいたり、とてもお元気で、すごいなと思いました。帰る時など、「おつかれさま。がんばってね。」

と、言われて、やっつてよかったと思いましたが。また、もつともつと子ども民生委員として、役に立ちたいなと思いました。

何回か活動するうちに、前よりもちゃんと話せていたし、感謝され気持ちもすっきりしました。

今年は敬老会がなくなり、あく手やお年寄りと話すこともなくなりましたが、訪問することで、少しはお話ができました。

まだまだそんなにたくさん交流ができたわけではありませんが、お年寄りの方々が喜んで笑顔になられたことが、とてもうれしかったです。私は、やりがいを感じることができたこの活動は、いい経験になりました。

これからも多くの人たちの役に立ち、校区の方々が笑顔あふれる「まち」にしたいと思いました。

この活動を次の学年の人たちも続けてもらい、幸せな「まち」にしていききたいと思います。



## プルタブ収集箱作り

青森県弘前市岩木児童センター

小学校6年 村上 結音



私は6月、ボランティアサークルの一員として、センターで使うプルタブ集め用の箱を作りました。私は3年生の時からボランティア活動をしています。プルタブ集め用の箱を作るのは初めてでした。少し楽しみもありました。

私の他に、6年生の友だち3人と低学年の子達と作りました。トイレトペーパーの芯を縦に切ったものをダンボールに取り付け、ペットボトルで当たり、はずれ、など書かれた容器をつくり、転がってきたプルタブが入るようにして、作りました。みんなが楽しみながら入れてくれるように、友達と相談しながら作りました。

最初はみんなが楽しんで入れてくれるか心配でした。でもセンターのろう下を歩いている時、みんなが楽しんで家に持ってってきたプルタブを入れているのを見て、うれしくなりました。ボランティアは環境を豊かにすることだけでなく、笑顔もふやすことだと改めてわかりました。今年はコロナウイルスがはやり、いつものようなボランティア活動があまり出来ませんでした。家にい

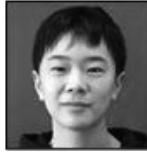
る時間が長い分、二酸化炭素などを昨年より多く排出していると思います。なので、二酸化炭素さく減のために、ペットボトルで自分好みのペン立てをリサイクルして、作って楽しんでいきます。リサイクルすると、気持ちもスッキリするし、環境にもうれしいです。このような気持ちでどんどんまわりの人達に伝わり、笑顔がもっと増えると思います。

私はもう少しで卒業だけど、またボランティアの活動があったらやりたいです。来年、また来年と笑顔が増えると良いなど、思いました。

## ボランティア活動

### 福岡県大牟田市立明治小学校

6年 諸藤 敦己



ぼくがボランティア活動をしたことで一番心に残ったのは、学校のぼ金活動です。

心に残った理由は、ぼ金をする前と後でかわったからです。

毎年8月にぼ金があります。そのぼ金は、遠い国の人が困っているから少しでもいいから助けてあげるぼ金です。

ぼくは、

「遠い国の人が困っているんだ」

としかおもっていませんでした。

ですが、去年の7月に大牟田市は水害になりました。そこからがしん水しました。

そして、ぼ金の行く先がみなと小学校にかわりました。

ぼくは、

「みなと小学校のままで水がはいってきたんだ、学校が水びたしになっているんだ」

と話しました。

遠くの人達も困っている原因はわからないけど、なにか困っているんだと思いました。

困っている原因がわかると共感できるし、なにかしてあげようという考えもできました。

ぼくは、原因がわからないと

「まあぼ金しとけばいいか」

ぐらいでした。ですが、原因がわかると

「かわいそう、このぼ金を役立てて」

と思いました。ですが、いまは、困っているのは困っているの、てきとうな気持ちではせず、しっかり気持ちをこめてからがぼ金というものと思っています。



## 【中学生賞】

### ふれあいボランティア活動感想文

東京都小平市立小平第五中学校

1年 門脇 立旺



自分の活動したボランティアは、小さい子供に、ぬりをプレゼントすることです。お母さんが働いている療育施設の子供達が、コロナの影響で、楽しみがなくなっていると聞いたので、子供たちが笑顔になるように自作のぬりえを渡しました。

自分がぬりえを作っていく中で、大変だったことは、いつも描いている絵と違ってぬりえは、外側を太くして、ぬりやすくするところです。

絵は大体の人々は、複数の線で、「シャッシャ」と描いています。ぬりえは、描いた後に、一本線にしないといけないところが難しいポイントでした。

完成したぬりえは、今回コロナの影響で自分の手で渡せなくてくやしかったけれど、お母さんを通して渡してもらいました。その後、渡した時の様子をお母さんから教えてもらいました。

「これおもしろい、こんなのどうやって描いたの」



と、笑顔あふれる子供達がたくさんいたと話していました。また、職員さん方も「遊びが増えて助かりました」と、感謝して下さっていたとのことでした。

自分が活動してみて、これでいいのかと悩んで、出した結果は、とてもよかったと思います。

ボランティアは、今回初めてでしたが、ボランティアをする側の心づかいが、受ける側の人々を笑顔にするということが分かりました。

もし、今回の施設や他の施設においても、要望があるとしたら、自ら進んでボランティアを実践していきたいと思いました。

### 身近な人とボランティア

東京都小平市立小平第五中学校

1年 永平 珠稀



私が行ったボランティア活動は、「小平すごろく作り」です。私の住んでいる小平市の魅力をアピールしようと思ひ、自粛期間中に作りました。作っているうちに、地域の魅力を知ることができ、楽しかったです。

ボランティア活動として「すごろく」を選んだ理由は、外に出られない状況で「ふれあう」には、すごろくがいいと思ったからです。



すごろくの具体的な内容には、小平市のキヤラクターや食べ物、場所を取り入れました。

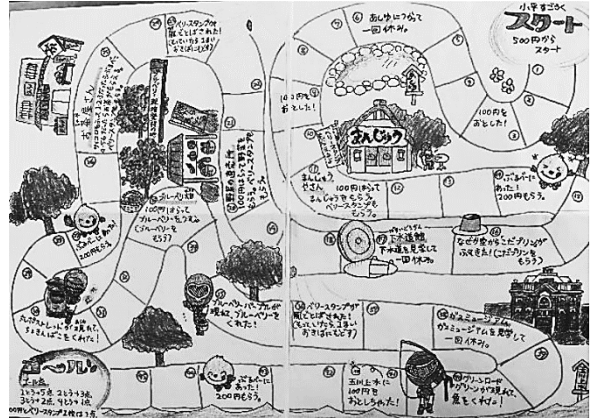
自肅期間中、実際に家族と遊んでみました。家族も楽しいと言ってくれ、作ってよかったと感じました。

自肅期間が終わってからも、友達と遊んで、「もう一度やりたい」と言ってくれたので、うれしかったです。

このように、家族も友達も、年齢を問わず楽しめるので、もっといろんな人に楽しんでほしいと思いました。

そんなとき、母が「こいだいら観光まちづくり協会」というところに、すごろくを見せに行ってくれました。みなさんが真剣にすごろくを見てくださり、良いと言っていたので、改めて作って良かったと思いました。

この経験で、「ふれあう」ということは、家族など身近な人とでもできるんだ、と気がきました。また、小平の魅力を知ってほしいという気持ちも高まりました。ウイルスがおさまったら、いろんな人とこのすごろくで遊んでほしいです。



## 【高校生賞】 地球環境

東京都立稔ヶ丘高等学校

2年 田村 陽



私は、小学校のころから定期的にゴミ拾いや落ち葉拾いをしています。ゴミ拾いをしていて思うことは、「何故ゴミを捨てて帰るのか?」と内心イライラしながら地域環境を整えるためにゴミ拾いをしています。ゴミ拾いをしてるとカンやビン、紙やビニール、プラスチック等といったいろいろな物が捨てられています。

一人一人がゴミ袋を持ち役割を決めて分担することが多いです。なので大変ですがいろいろな人たちと協力して地域ゴミの清掃に尽力しています。しかし、悲しいことに、これだけのことをやってもゴミのポイ捨てが無くなりません。いくら拾っても次の日にはまたカンやビン、いろいろなゴミが捨てられています。やってもやってもキリがありません。けれど、そこで止めてしまうのとても悔しいです。今まで拾ってきた努力が無駄になってしまうのは自分の的に負けた気分になってあまり気持ちの良いものではないと思ったからです。今でもゴミ拾いを続けています。

私がゴミ拾いをへて気が付いたことは、大変なことや、辛いこと、苦しいことがあっても諦めずに自分ができる最大限をやれば、その結果努力に見合わないものになってもその過程に自分が満足していればいいのだと気づきました。これからも、いろいろな人たちとふれあい、話して、地域に貢献していけたらと思います。皆さんも小さなことから始めてみると良いと思います。

## 人との繋がり

### 東京都立穂ヶ丘高等学校

#### 3年 久能 向日葵

私は昨年の冬、命を目の当たりにしました。母と二人で買い物に出掛けている時でした。日が沈んだ夕方時にすれ違った年配の方が突然倒れてしまい、初めは泥酔しているのかと思ったのですが起き上がる気配がなく声を掛けるが反応がなく焦っていると近くを歩いていた方が周りの方を呼び止めてくれ私は救急に電話をしました。

私が電話をしている間に、元消防士の方や看護師の方が偶然通りかかり心臓マッサージをしたり、AEDを持ってきてこの場で出来る限りの処置をしました。私は授業で救急への電話の仕方を習っていたので、詳しく説明

をすることができました。少し経つと救急車が到着し救急隊の方に引き継いでもらいました。その後警察の方に出来事を説明しました。

数日が経ってから消防署から連絡があり、急病人の方は無事に意識が戻ったとの報告と表彰をしたと言っていたとき、とても嬉しかったです。

後日、母と消防署に行くところの時に処置を施していた方たちがいて、色々な話をして表彰式を行っていただきました。署長さんから、

「人が倒れていても悪意はないが見て見ぬふりをしてしまう人が多い。」

という話しを聞き、勇気を出して声を掛けて良かったと心から思いました。

人はいざれ亡くなってしまふけれど誰かの手で助かる命は沢山あり、誰かを助けたいという気持ちで沢山の人が助けられる素敵な繋がりがもつと沢山増えたらいいなと思いました。

私はこの経験を通して、命の儚さ、大事さ、人との繋がりの大切さを改めて感じました。



令和2年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト(令和3年3月現在)  
 学校140校・5団体  
 参加児童・生徒数33,762人

1	青森県		弘前市岩木児童センター	
2	岩手県		盛岡市立月が丘小学校	
3			盛岡市立厨川中学校	
4	宮城県	FB	仙台市立七北田小学校	
5	秋田県	鹿角市教育委員会	鹿角市立花輪小学校	
6			鹿角市立花輪北小学校	
7			鹿角市立平元小学校	
8			鹿角市立十和田小学校	
9			鹿角市立大湯小学校	
10			鹿角市立尾去沢小学校	
11			鹿角市立八幡平小学校	
12			鹿角市立花輪中学校	
13			鹿角市立十和田中学校	
14			鹿角市立尾去沢中学校	
15			鹿角市立八幡平中学校	
16			山形県青年の家	山形市立第一中学校
17				山形県最上郡鮭川村立鮭川小学校
18				山形県最上郡鮭川村立鮭川中学校
19				青少年地域ボランティアサークル「SAKEKKO」
20	山形県新庄市立新庄中学校			
21	山形県舟形町立舟形小学校			
22	山形県舟形町立舟形中学校			
23	青少年地域ボランティアサークル「ふなっ子」			
24	山形県立新庄南高等学校金山校			
25	山形県立山辺高等学校			
26	山形県公立・私立高等学校59校(1年生)			
85	茨城県		水戸市立河和田小学校	
86	埼玉県		つくば市立荃崎第一小学校	
87		FA	春日部市立豊春中学校	
88	千葉県 栄町社会福祉協議会 栄町教育委員会		行田市立埼玉中学校	
89			栄町立安食小学校	
90			栄町立布鎌小学校	
91			栄町立安食台小学校	
92			栄町立竜角寺台小学校	
93			栄町立栄中学校	
94			品川区立小中一貫校荏原平塚学園	
95	東京都	FA	品川区立品川学園	
96			目黒区立鷹番小学校	
97		FA	北区立浮間中学校	
98			板橋区立板橋第六小学校	
99			板橋区立舟渡小学校	
100			板橋区ジュニアリーダー一会	
101			練馬区立大泉第六小学校	
102			小平市立小平第五小学校	
103			小平市立小平第十四小学校	
104			小平市立学園東小学校	
105			小平市立小平第五中学校	
106			小平市立花小金井南中学校	
107		FA	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	
108		稲城市立稲城第六中学校		
109	FB	東京都立穆ヶ丘高等学校		

110	山梨県	FA	北杜市立泉小学校	
111	静岡県		袋井市立袋井南中学校	
112	広島県		竹原市立賀茂川中学校	
113	福岡県	小都市	福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)	
114			踏心隣組	
115			大牟田市立みなと小学校	
116			大牟田市立天籟小学校	
117			大牟田市立駿馬小学校	
118			大牟田市立大牟田中央小学校	
119			大牟田市立大正小学校	
120			大牟田市立中友小学校	
121			大牟田市立明治小学校	
122			大牟田市立白川小学校	
123			FA	大牟田市立平原小学校
124				大牟田市立高取小学校
125				大牟田市立三池小学校
126				大牟田市立羽山台小学校
127		大牟田市立銀水小学校		
128		大牟田市立上内小学校		
129	FA	大牟田市立吉野小学校		
130		大牟田市立倉永小学校		
131	FB	大牟田市立宮原中学校		
132	FA	筑紫野市立二日市小学校		
133	長崎県	FA	対馬市立仁田小学校	
134	佐賀県	神埼市教育委員会	嬉野市立久間小学校	
135			神埼市立神埼小学校	
136			神埼市立西郷小学校	
137			神埼市立脊振小学校	
138			神埼市立千代田西部小学校	
139			FA	神埼市立千代田中部小学校
140				神埼市立千代田東部小学校
141				神埼市立仁比山小学校
142				神埼市立神埼中学校
143				神埼市立脊振中学校
144		神埼市立千代田中学校		
145	鹿児島県		南九州市立中福良小学校	

○:ふれあいボランティアパスポートフレンド(FA/FB)

(FA):教育委員会や学校・団体が作成したオリジナルのふれあいボランティアパスポートを使用して参加いただいています。

(FB):ふれあいボランティアパスポート類を使用せず、申込時の参加人数を寄付団体数で分けて、寄付のみに参加いただいています。

◇教育委員会やとりまとめ団体

管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめて、参加いただいています。

令和2年度ふれあいボランティア活動感想文集  
令和3年3月発行

認定NPO法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区天沼3-7-3  
荻窪法人会館3階

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : [info@ssc-npo.or.jp](mailto:info@ssc-npo.or.jp)